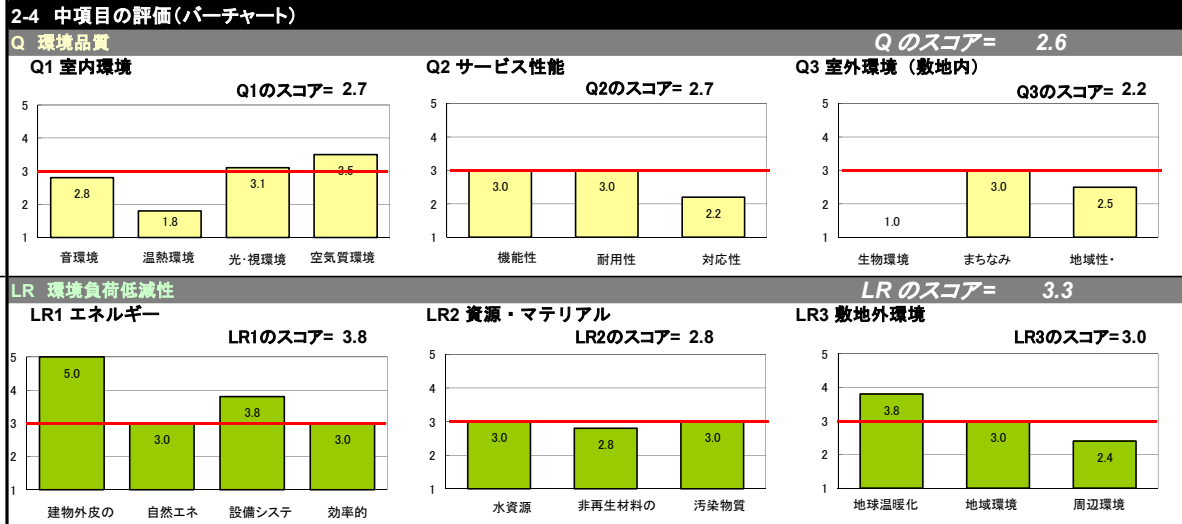
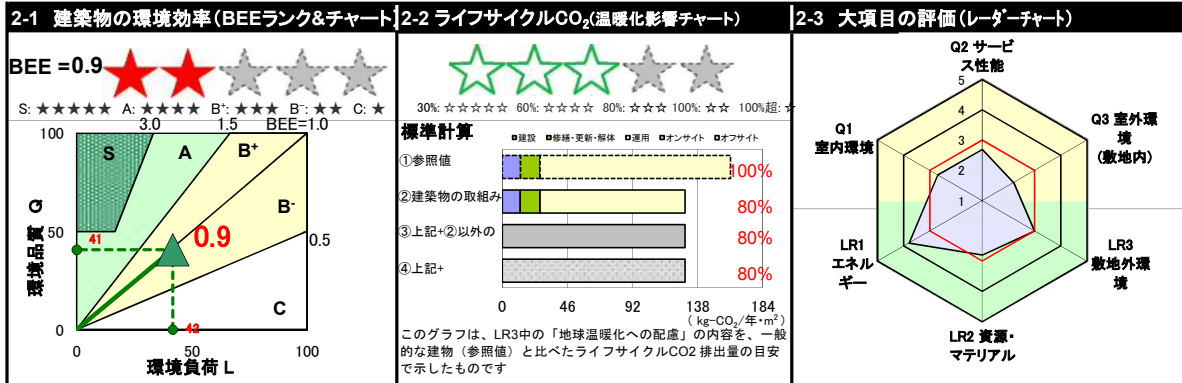


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)三河安城安城織物II号館B	階数	地下0階地上14F
建設地	愛知県安城市三河安城南町1丁目1	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	317人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年11月 予定	評価の実施日	2017年9月1日
敷地面積	691㎡	作成者	小林 和弘
建築面積	361㎡	確認日	2017年9月6日
延床面積	4,277㎡	確認者	小林 和弘



3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.8</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>1.4 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	1.4 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	1.4 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.8</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部全体・共用部除く・宿泊部 住居・宿泊部分						全体
配慮項目	独自基準	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数
	重点項目									
Q 建築物の環境品質										2.6
Q1 室内環境										2.7
1 音環境										2.8
1.1 室内騒音レベル										1.00
1.2 遮音										0.40
1.2.1 開口部遮音性能										0.40
1.2.2 1 界壁遮音性能										0.30
1.2.2 2 界床遮音性能(軽量衝撃源)										0.20
1.2.2 3 界床遮音性能(重量衝撃源)										0.20
1.2.2 4 界床遮音性能(重量衝撃源)										0.20
1.3 吸音										0.20
2 温熱環境										1.8
2.1 室温制御										0.50
2.1.1 1 室温										0.57
2.1.1 2 外皮性能										0.43
2.1.1 3 ソーン別制御性										-
2.2 湿度制御										0.20
2.3 空調方式										0.30
3 光・視環境										3.1
3.1 昼光利用										0.30
3.1.1 1 昼光率				客室の昼光率:2.0%						0.60
3.1.1 2 方位別開口										-
3.1.1 3 昼光利用設備										0.40
3.2 グレア対策										0.30
3.2.1 1 昼光制御										1.00
3.3 照度										0.15
3.4 照明制御										0.25
4 空気環境										3.5
4.1 発生源対策										0.63
4.1.1 1 化学汚染物質				建築材料F☆☆☆☆を使用						1.00
4.2 換気										0.38
4.2.1 1 換気量										0.33
4.2.1 2 自然換気性能										0.33
4.2.1 3 取り入れ外気への配慮										0.33
4.3 運用管理										-
4.3.1 1 CO ₂ の監視										-
4.3.1 2 喫煙の制御										1.00
Q2 サービス性能										2.7
1 機能性										3.0
1.1 機能性・使いやすさ										0.60
1.1.1 1 広さ・収納性										0.50
1.1.1 2 高度情報通信設備対応				CAT5のケーブル利用環境を整備						0.50
1.1.1 3 バリアフリー計画				独自						-
1.2 心理性・快適性										0.40
1.2.1 1 広さ感・景観 (天井高)										0.50
1.2.1 2 リフレッシュスペース										0.50
1.2.1 3 内装計画										-
1.3 維持管理										-
1.3.1 1 維持管理に配慮した設計										-
1.3.1 2 維持管理用機能の確保										-
2 耐用性・信頼性										3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振										-
2.1.1 1 耐震性(建物のこわれにくさ)										-
2.1.1 2 免震・制震・制振性能										-
2.2 部品・部材の耐用年数										-
2.2.1 1 躯体材料の耐用年数										-
2.2.1 2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				②						-
2.2.1 3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										-
2.2.1 4 空調換気ダクトの更新必要間隔										-
2.2.1 5 空調・給排水配管の更新必要間隔										-
2.2.1 6 主要設備機器の更新必要間隔										-
2.4 信頼性										-
2.4.1 1 空調・換気設備										-
2.4.1 2 給排水・衛生設備										-
2.4.1 3 電気設備										-
2.4.1 4 機械・配管支持方法										-
2.4.1 5 通信・情報設備										-

3 対応性・更新性				3.0	0.29	2.0	2.0	1.00	2.2
3.1 空間のゆとり				-	-	1.0	1.0	0.50	
1 階高のゆとり				-	-	-	1.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ				-	-	-	1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				3.0	-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				3.0	1.00	-	-	-	
1 空調配管の更新性	②			3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.17	-	-	-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.11	-	-	-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.22	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出	独自③			1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④			3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性									3.3
LR1 エネルギー					0.40				3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =0.81		5.0	0.30	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI _m =0.76		3.8	0.30	-	-	-	3.8
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング				-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					0.30				2.8
1 水資源保護				3.0	0.15	-	-	-	3.0
1.1 節水				3.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				2.8	0.63	-	-	-	2.8
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	② 独自	-		3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	-		1.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	躯体と仕上材を容易に分別可能とした		4.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68	-	-	-	
1 消火剤				-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒				3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境					0.30				3.0
1 地球温暖化への配慮	①	ライフサイクルCO ₂ 換算値:88%		3.8	0.33	-	-	-	3.8
2 地域環境への配慮				3.0	0.33	-	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減	独自			3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制	独自			3.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				2.4	0.33	-	-	-	2.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音	独自			3.0	1.00	-	-	-	
2 振動	独自			-	-	-	-	-	
3 悪臭				-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				1.6	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制				1.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制				-	-	-	-	-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうらみに漏れる光への対策				3.0	0.70	-	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

(仮称)三河安城安城織物Ⅱ号館ビル

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			3.8
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.8	0.10
② 資源の有効活用			2.8
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.8	0.19
③ 敷地内の緑化			1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09
			外構緑化:1.39%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			1.0
			(評価ポイント)
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-
			なし
			なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)三河安城安城織物

計画上の配慮事項	
総合	省エネルギー性を高め、温熱環境負荷の低減を図る。
Q1 室内環境	シックハウス対策等、宿泊者の快適性に配慮した内装とする。
Q2 サービス性能	設備各種配管は耐用年数の高い材質を採用する。
Q3 室外環境(敷地内)	可能な限り、緑地計画を行なった。
LR1 エネルギー	省エネルギー基準をクリアする省エネ設備を採用する。
LR2 資源・マテリアル	構造部材を強度の高いものとし、材料使用量の削減に努めた。
LR3 敷地外環境	駐車場の確保により交通負荷抑制に配慮した。
その他	特になし。